

令和2年度学校評価計画

学校名	白石町立北明小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であった。 ・学力向上については「家勉強間」が定着し、大きな成果をあげることができた。 ・「あいさつ」については、「あいさつボランティア」など、様々な工夫をして成果は上がってきている。さらに地域での元気なあいさつが定着するよう工夫をしていく。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、時間と場を設定し改善に向けた話し合いを行ってきたが、時間外勤務については目標を達成できなかった。さらに、行事精選と教職員の意識の向上を図っていく。 		
2 学校教育目標	<p style="text-align: center;">地域のよさをいかし、夢をもち、未来を担う学校づくり</p> <p>◇ かしこく(知) : 確かな学力・知恵を磨く ◇ やさしく(徳) : やさしく人と関わる力を培う ◇ たくましく(体) : 健康で元気な態度を育む</p>		
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の学力の向上○学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力の育成○望ましい学習習慣と学習態度の育成 ○人と協調し、人を思いやる心の育成○自らを律する心の育成○人と関わる力の育成 ○望ましい健康生活の習慣化、学校体育の推進○食育の推進と性教育の実施○特別支援教育の推進○教育相談の充実 		
4 重点取組内容・成果指標			
(1) 共通評価項目			
	重点取組		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。
	○様々な場での交流活動の充実	○「自分の考えを友達に伝えることができる」と答える児童の割合を80%以上にする。	・話し方や聞き方の具体的な型を示す。 ・各教科で、自分の考えを書いたり、友達と話し合ったりする場を意図的に設定する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・「たすきコーナー」(児童の認め合い)や、道徳コーナーを効果的に活用し、児童の自己肯定感を高める。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・定期的なアンケートや、心のチェックシートによる児童の実態把握に努める。 ・いじめの対応についての研修・会議を長期休業中および随時行う。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)80%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・キャリアパスポートの活用により、将来の夢や目標を意識させる。
●健康・体づくり	④「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	④「健康に食事は大切である」と考える児童生徒95%以上	・栄養職員と連携し、各学年食育の授業を1時間以上実施する。 ・給食委員会の放送と児童集会における啓発活動を行う。 ・食に対する意識調査を実施し、保護者へ啓発する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・水曜日の定時退勤日を推進する。毎月第3水曜日は、特に意識を持たせ、全員退勤を奨励する。 ・業務の効率化のための整備を行う。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○特別支援教育の充実	○支援が必要な児童への適切な支援についての全職員による共通理解と実践	○年2回、職員に対して意識調査を実施し、特別支援体制が機能していると答える職員が80%以上を目指す。	・個別の教育支援計画、指導計画を確実に作成し、前期後期で振り返りをして改善をする。 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有